



## 伝統工芸の素晴らしさを 繋いでいきたい

伊勢一刀彫職人

おおた ゆい  
太田 結衣さん

### 伊勢一刀彫りとは?

荒削りで大胆な造形が特徴の木彫です。神宮ご造宮に従事する宮大工が、余技として端材を用いた縁起物等を刻んだのが起源とされています。



代参犬



金魚バッグ

**知事:** 太田さんが、伊勢一刀彫の職人になろうと思ったきっかけを教えてください。

**太田:** この道に進もうと思ったのは、高校の卒業制作で彫刻を体験したことがきっかけです。大学でも彫刻について学びたかったので彫刻学科木彫専攻のある東京の大学に進学しました。卒業後は、学んだ技術を生かせる仕事をしたいと考えていたところ、祖父が伊勢神宮から受けていた「えと守<sup>まもり</sup>」を思い出し、このお守りをつくることができればと実家の三重に帰ってきました。

**知事:** えと守を作りたいと三重に戻って来られましたが、そんな簡単な道のりではなかったのではないですか。

**太田:** はい。当時の私は、伊勢神宮の「えと守」は知っていたものの、伊勢一刀彫という言葉も知らず、ネットで検索してもつづっている職場や職人さんを探し出せませんでした。そうしているうちに、その年の5月に、たまたまご縁があって師匠である岸川<sup>きしかわ</sup> 行輝<sup>ゆきてる</sup>さんに出会い、弟子入りをお願いしたところ快く受け入れてくださいました。

**知事:** 岸川さんに弟子入りされてみていかかでしたか。

**太田:** 師匠と弟子という上下関係が厳しいというイメージがありますが、私の師匠の岸川さんはフレンドリーで、呼び方も師匠ではなく「岸川さん」「結衣ちゃん」と言い合う関係です。また、教え方も優しく、職人の世界も師匠によって雰囲気が変わるんだと知りました。

**知事:** 上下関係の厳しい師弟関係ばかりではなく、チームのように協力し合うフレンドリーな関係を築いているんですね。そういう素敵な間柄で学べる伝統工芸もあることを若い人に知ってもらえれば、チャレンジしてみようと思う人が増えるかもしれませんね。



玉城町にある太田さんのアトリエを訪ねました。

**太田：**実は昨年、木工関係の職人になりたいという女の子が私の所へ相談に来てくれました。そこで師匠の話をしたら、自分も伊勢一刀彫の職人になりたいと決心してくれました。師匠にも彼女を紹介したら、私の時と同じようにすぐに受け入れてくださって、私にも妹弟子ができました。もう一人、弟弟子もいます。

**知事：**若者の入門者も増えてきているということですね。いいことですね。

**太田：**若い人に今後も入ってきていただければ、伝統工芸がとぎれることなく続いていくと思います。私は、師匠たちと新しい人のつなぎ役としての役割を果たしていきたいと考えています。

**知事：**なるほど。そういう意味では、太田さんも参加されている若手の伝統工芸職人の皆さんが結成したグループ「常若<sup>とこわか</sup>」の存在ってすごく大きいですね。

太田さんが、「常若」の活動を通じて伝えたいことは何でしょうか。

**太田：**やっぱり継承していくことが大事だと思うので、若い人が伝統工芸の世界に入ってくるような活動を続けていきたいと考えています。「職人ってカッコイイんだよ」と感じてもらえるような活動をしていきたいですね。

もう一つは、やっぱり挑戦を続けなければいけないと思うんですね。若手として師匠たちができないこと、若いからこそできるチャレンジもあると思うので、今のうちにどんどんやっていきたいと思っています。

**知事：**例えば、今後どんな挑戦をしていきたいとお考えですか。



伊勢にゆかりのある神鶏の制作様子を見学



伊勢一刀彫<sup>えと いぬ</sup>で干支の戌を彫る作業や彩色を体験しました。



「常若」でのワークショップの様子



突撃取材！限定品の「干支・戌」を作ってくれました。

太田：そうですね。いっぱい挑戦したいと思うことはありますが、作品としては神鷄<sup>しんけい</sup>や蛙<sup>かえる</sup>、代参犬<sup>だいさんけん</sup>以外で、伊勢ならではの新しいモチーフを作り、伊勢や三重の魅力を伝えていきたいと考えています。

知事：もっといろんなバリエーションで、伊勢らしいもの、三重らしいものを作っていきたいということですね。作品づくり以外では、いかがですか。

太田：昨年、私は結婚しました。まだ子どもはいませんが、将来は子育てと職人の両立ができるようになりたいと思っています。母親になっても職人としてやっていけるということを見せることができたらいいなあと考えています。

知事：いいですね。職人としても、現役でしっかり活動できるロールモデルをつくっていただけると、若い人たちの見本になりますね。また、これからの働き方も変えていけるかもしれませんね。

太田：そうですね。それをめざして頑張っていきたいと思います。

知事：多様なライフスタイルを持つ人材が伝統工芸にチャレンジし、続けられる環境が整っていくことが、技術の継承につながっていきますからね。ぜひ先頭に立って頑張ってください。

太田：はい、頑張ります。

知事：ありがとうございました。

太田：ありがとうございました。



※インタビューの内容は、読みやすさの観点から一部要約等を行っています。

※記載内容、写真の無断転載を禁じます。

※内容に関するご意見・お問い合わせは、三重県戦略企画部広聴広報課まで

〒514-8570三重県津市広明町13 ☎ 059・224・2788 FAX 059・224・2032 E-mail koho@pref.mie.jp